

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

課題名③ 肉用牛子牛産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4			・さつまの牛をいかに高く売ることができるかなのでとても必要な事だと思います。	・継続して課題に取り組む。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	1		・4戸の経営育成が行われたとありましたが、成果がほぼ1件だけだったので、他の経営体はどうだったのかと思った。	・他の経営体にも技術・経営分析等の支援は実施している。 ・今後も継続して課題に取り組む。
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	1		・活動の方法として体測の時に子牛の成長のグラフを作っていたといいなと思います。言葉だけではイメージがわからないので。 ・いろいろな助言をいただけてとても助かっています	・早速、次回体測時に子牛の発育状況をグラフ化して提示したところ、納得してもらえた。 ・今後も発育調査農家を増やしても継続して課題に取り組む。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	1		・子牛の値段に効果が多少はあったようでしたのでよかったです。 ・牛が大きくなってきているので、ありがたいです。	・JAと連携して育成指導できていることで、子牛発育も確実に改善されてきており、更なる商品性向上に努めたい。 ・改善モデルを増やし、今後も継続して課題に取り組む。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	2			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	2			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

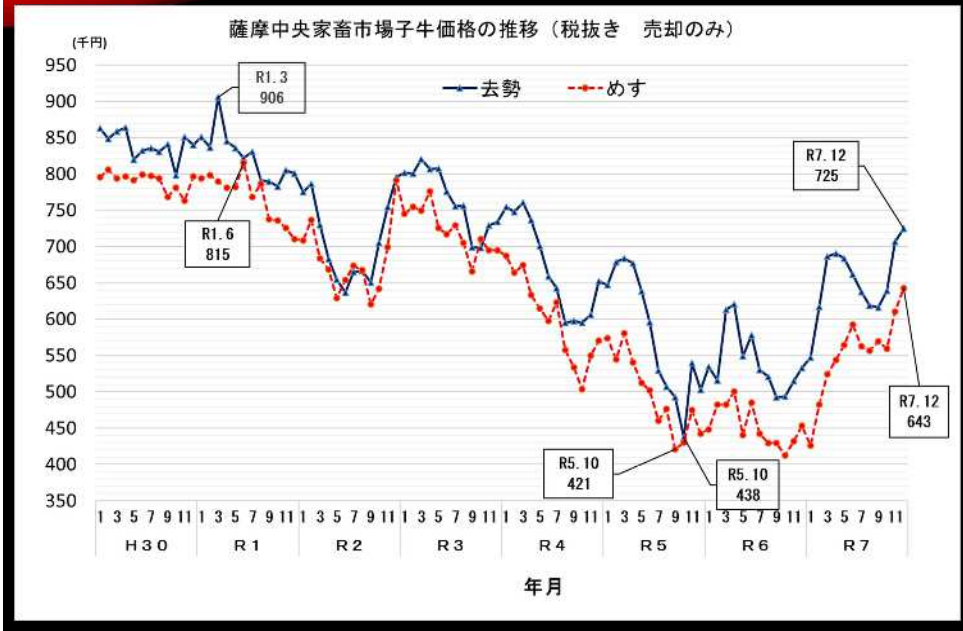
課題名③ 肉用牛子牛産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5	0		・地域にとって米と畜産は非常に大事なものでもありますので、継続した支援が必要だと思います。 ・昨今の子牛相場の低迷を受け、生産基盤の脆弱化が大きな課題だと思います。基盤強化含め商品性の向上(出荷日齢の短縮など)等にご指導ください。	・継続して課題に取り組む。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	4	1			
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	2	3		・農地の有効利用の観点から自給飼料の確保への動きがさらに進展するよう、普及に取り組んでいただきたい。	・自給粗飼料増産に向けて、今後も継続して課題に取り組む。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	2			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	3		・システム(機器)導入に関する財政的支援が必要と思います。	・中核的農家においては一定程度導入されたと考えますが、畜産クラスター事業等を活用できればさらに導入が進むものと思われます。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	3	2			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	3		・畜産振興会等発表の場の確保と広報、周知活動を。 ・農地の有効利用の観点から自給飼料確保への動きがさらに進展するよう普及に取り組んでいただきたい。 ・子牛生産を支援していただきありがたいが、県として販売(ブランド)力の推進を、JA、関係機関と連携をとり、所得向上に努めてほしい。	・改善成果や技術情報を研修会等で波及していきたいと思います。 ・薩摩地域の優良種雄牛・繁殖雌牛系統の保留推進を図りながら鹿児島黒牛ブランド波及に貢献できればと考えます。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	2			

肉用牛子牛産地の育成(R6~R7)



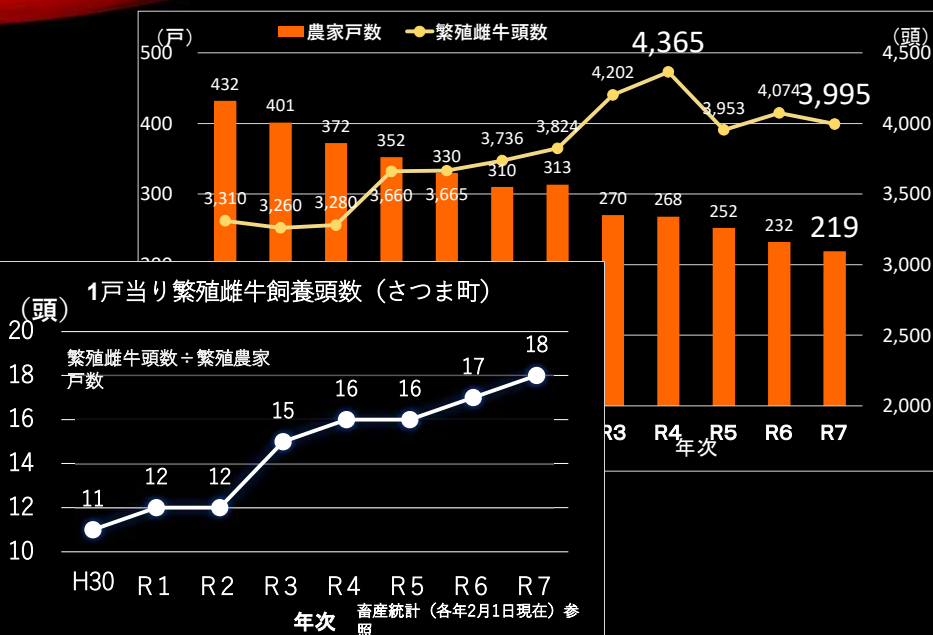
北薩地域振興局農政普及課
さつま町駐在 坂元文昭

子牛価格の推移



課題を取り上げた背景

肉用牛(さつま町)の現状



飼料費の高騰



課題選定及び活動内容

1. 産地を支える経営体の育成
2. 飼養管理技術の向上
3. 自給飼料の生産拡大

対象

繁殖雌牛20頭以上農家及び新規就農者等 47戸

活動体制(連携)

- ・さつま町 JA北さつま 農政普及課
- ・県肉用牛振興協議会川薩支部
- ・川薩地区指導農業士会

経営改善支援例

R5年

子牛販売額 20,898千円

牛舎・堆肥舎・草地等完成
(補助事業活用)
L資金借入

- ・増頭
- ・年1産の維持
- ・子牛商品性向上

親牛 54頭
子牛出荷39頭

平均単価
♂564千円 } 520千円
♀477千円

現状把握・課題整理
経営・技術診断
改善案検討



R7年

子牛販売額 25,564千円

- ・計画的増頭
(計画的な自家保留)
- ・年1産の維持
(ICT機器の活用)
- ・子牛商品性向上
(発育調査・給与)
- ・自給飼料確保
(実証ほ設置)
- ・資金借換検討
(関係機関との検討)

親牛 63頭
子牛出荷40頭
平均単価
♂668千円 } 610千円
♀555千円

R8年 目標

親牛 70頭
子牛出荷50頭

1. 産地を支える経営体の育成

(1) 経営改善計画実践支援

ア 個別実践支援: 経営体事業農家4戸

現状把握・
課題整理

技術(出荷、繁殖)分析

経営全体分析、コスト分析

改善案検討

4戸の経営概要

A農家: 後継者34歳 両親と現在60頭規模。R5年事業で牛舎完成

B農家: 40歳 35頭規模。ICT機器をいち早く導入。

C農家: 34歳女性 40頭規模。規模拡大は立地的に厳しい。

D農家: 46歳 R4年新規就農 20頭規模。規模拡大は立地的に厳しい。

イ 定期巡回・情報提供

内容

- ・毎月のセリ市結果情報提供
- ・技術情報(年2回程度)
- ・半年毎の農家個人出荷成績返信
- ・子牛競り市前研修(年2回)

○畜産情報 令和7年12月 (セリデータは上場売却のみを累計しています)

○R7.12月セリ市結果 販売価格トップ10(全体) 県内家畜・本人は除く

セリ日	性別	産次	父名	母名	日齢	体高	体重	セリ価格	経産	セリ単価
1 R7.12.5	去勢	2	正北平	豊満福	否合茂	263	116.9	395	922,000	1.50
2 R7.12.5	去勢	4	豊満福	豊満福	安福久	274	122.3	355	888,000	1.30
3 R7.12.6	去勢	2	正北平	豊満福	豊満福	292	119.2	379	876,000	1.30
4 R7.12.6	去勢	5	豊満福	豊満福	豊満福	273	119.9	361	865,000	1.32
5 R7.12.6	去勢	2	正北平	豊満福	豊満福	269	118.9	353	856,000	1.31
6 R7.12.6	去勢	5	豊満福	豊満福	豊満福	296	120.4	362	851,000	1.21
7 R7.12.6	去勢	4	豊満福	豊満福	豊満福	287	117.9	350	845,000	1.22
8 R7.12.6	去勢	3	豊満福	豊満福	豊満福	272	118.4	342	842,000	1.25
9 R7.12.6	去勢	5	豊満福	豊満福	豊満福	265	120.1	344	839,000	1.30
10 R7.12.6	去勢	5	豊満福	豊満福	豊満福	265	120.1	344	839,000	1.30

畜産情報(最終対策)について R6.7月

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

～追加的に 近年の畜産データ～

2. 飼養管理技術の向上

(1) 子牛発育改善支援

A農家の支援事例

- ・毎月の子牛の発育調査と飼料給与内容検討
- ・子牛出荷成績検討
- ・繁殖成績(授精状況)確認
- ・その他相互検討

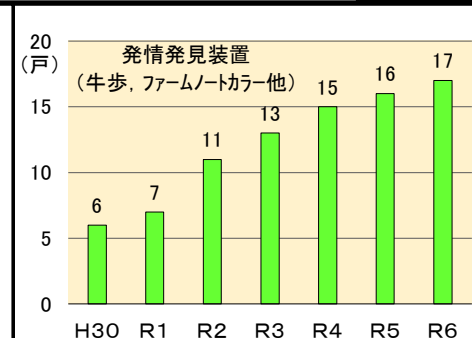
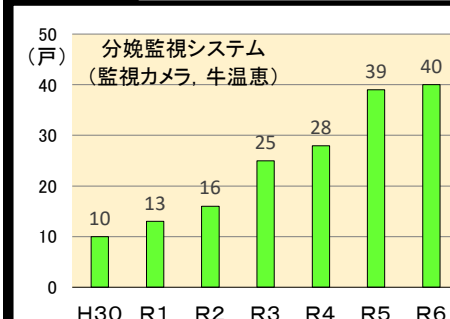
性別	名号	母			血統		
めす	よしぎくろ3 7419-3	さくら5の3			野喜久×安福久×勝忠平		
発育調査							
調査日	生後 日齢	給与状況					
		体高 (cm)	体高 (σ)	胸囲 (cm)	胸囲 (σ)	腿囲 (cm)	推定 体重
10/1	135	98.0	106	116		133.0	重 17cm 高 50cm オ 0.1kg フ
11/4	169	105.8	190	130		149.0	重 19cm 高 50cm オ 0.8kg フ
12/9	204	108.6	140	142.0		161.0	重 19cm 高 50cm オ 0.8kg フ
1/9	235						
備考	16/1 195日齢	150日齢→体高標準=97.1 1.5σ=101.5 胸囲1.5σ=128.4					
	11/4 169日齢	下胸主筆 ウルシー+ピオシーをふりかけてみる 重を少し上げる					
	12/9 204日齢	190日齢→体高標準=101.1 1.5σ=105.8 胸囲1.5σ=136.8					
	1/9 235日齢	210日齢→体高標準=104.7 1.5σ=109.5 胸囲1.5σ=142.8					



(2) 生産性向上支援

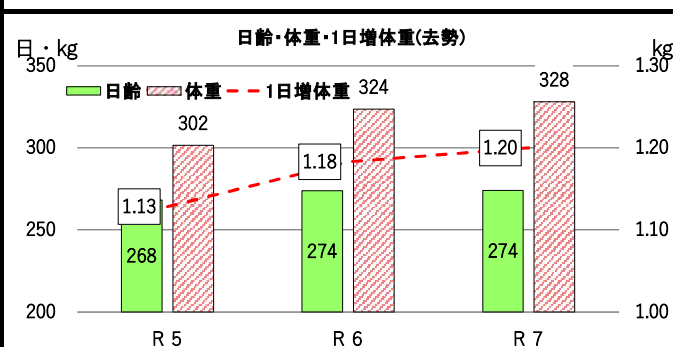
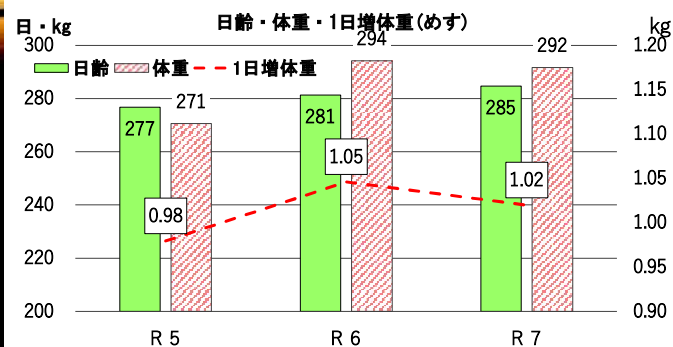
○繁殖管理改善支援

20頭以上飼養農家でのスマート農業機器導入の推移(さつま町)



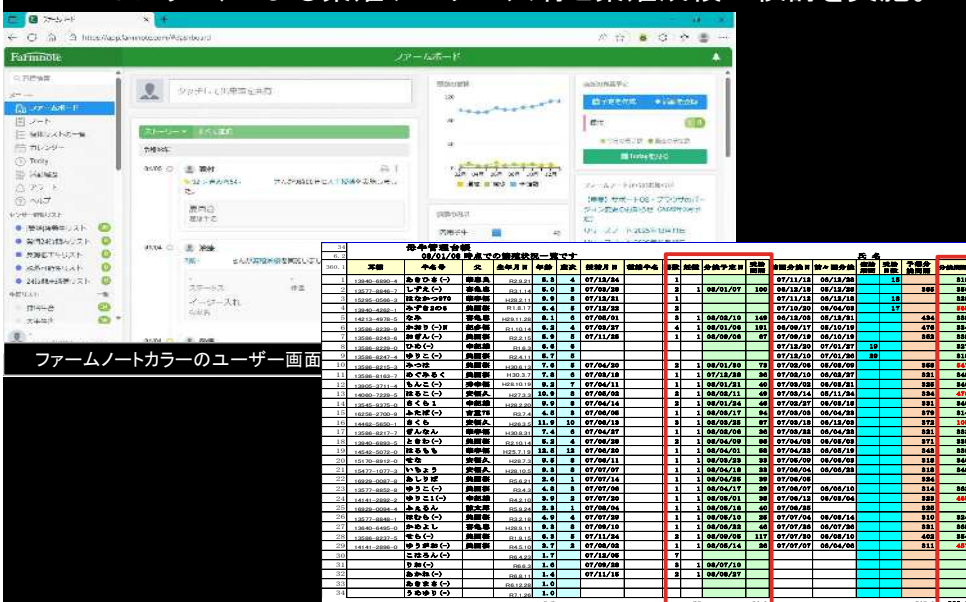
→中核農家でのスマート農業機器の導入は進んだ

支援結果



活動内容

- ・モデル農家2戸において、スマート農業機器(商品名:ファームノートカラー)による繁殖データの共有と繁殖成績の検討を実施。



対象農家2戸の平均分娩間隔

		R5	R6	R7
A 農家	繁殖雌牛頭数	54	57	63
	平均分娩間隔	377	377	372
B 農家	繁殖雌牛頭数	32	32	31
	平均分娩間隔	361	373	360

利用農家2戸の感想

導入前:牛舎での観察時間に制限があり、発情見逃しもあった。

導入後:24時間、観察データを基に通知が届き、見逃しも無くなり、
観察精度が上ががり、かつ省力化が図られた。
現在はシステムにも慣れて判断も的確にできるようになった。

R7年度 耐湿性牧草(ミレット類)現地実証

○供試品種(2種類)

① 青葉ミレット(雪印種苗 中生)

② シロヒエ(雪印種苗 早生)



青葉ミレット
耐湿性に優れる



シロヒエ
生育期間短い

○調査結果

播種日:令和7年7月5日 播種量:4kg/10a 施肥:化成肥料80kg/10a 堆肥なし

品 種	調査日	生育期	草丈 (cm)	生草収量 (kg/10a)	サイレージ成分分析(乾物中%)		
					乾物率	粗蛋白質	T D N
青葉ミレット	9/9 (66日目)	出穂期	95.3	2,090	45.6	9.5	50.5
シロヒエ		出穂期	110.6	1,730	44.9	11.4	51.1

3. 自給飼料の生産拡大

ウ. ロールベール体系に対応した実証ほ設置

R6年度 暖地型牧草(スーダングラス)品種比較

① リッチスーダン(雪印種苗 早生) ② ロールスイートBMR(雪印種苗 極早生)



リッチスーダン
消化性・耐病性に優れる



ロールスイートBMR
繊維(リグニン)成分が少ない

○調査結果

播種日:令和6年7月5日 播種量:8kg/10a 施肥:化成肥料10kg/10a 堆肥なし

品種	調査日		調査時の出穂程度		草丈 (cm)		生草収量 (kg)		
	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	合計
リッチスーダン	8/22 (50日目)	10/8 (47日目)	伸長期	伸長期	227.8	215.0	6,575	6,320	12,895
ロールスイートBMR			出穂始め	出穂始め	212.9	219.9	5,575	5,685	11,260

今後の課題

- ▶ 若手農家の経営安定に向けた技術・経営向上支援の継続
- ▶ 子牛の商品性向上と損耗防止
ICT機器等の活用による省力化と生産性の向上
- ▶ WCS用稲を含む地域の飼料生産・利用実態に即した年間作付け体系の確立



飼養管理指導
(発育調査・繁殖確認)



自給飼料確保
(実証ほ・体系確立)

関係機関と連携し、肉用牛産地の維持・発展に努めます



NF営農塾畜産部門別研修
(R6先進農家研修)



生産者研修会
(肉用牛振興協議会)